

世界に例ない仙台・ジャズフェス

ソニヤ・ブラシケ

参加者数で世界最大の音楽フェスティバルといえ「サマーソニック」(首都圏)、ブラジル・リオのカーニバルと大阪)など有名なフェスティバルに違いない。有名なサンパ学校などのグループのほか、来年は300のバンドが出演する。でも、たまたま300なの?と仙台の市民なら言うかもしれない。

バンド数に驚き

9月第2週の土日に催された、第19回定禅寺ストリートジャズフェスティバル in 仙台。たくさんの素晴らしいことがあった。ロック好きの私は、欧州と日本で数え切れないほどの音楽フェスティバルを訪ねたが、ジャズフェスは多く、バンドが参加するのは見たことがない(約50のステージで約720バンド、40万人を超える欧州有数の800人のミュージシャンが演奏を行った)。

「フジロックフェスティバル」のロゴに塗り固められ

野外にステージを設け、出演者は無料で演奏する。人2000円の参加料が運営を支える。これは独特のアイデアだ。

フランスの6月の音楽祭「Fête de la musique」も似たことで数え切れないほどの音楽フェスティバルを訪ねたが、ジャズフェスは多く、バンドが参加するのは見たことがない(約50のステージで約720バンド、40万人を超える欧州有数の800人のミュージシャンが演奏を行った)。

「フジロックフェスティバル」のロゴに塗り固められ

野外にステージを設け、出演者は無料で演奏する。人2000円の参加料が運営を支える。これは独特のアイデアだ。

フランスの6月の音楽祭「Fête de la musique」も似たことで数え切れないほどの音楽フェスティバルを訪ねたが、ジャズフェスは多く、バンドが参加するのは見たことがない(約50のステージで約720バンド、40万人を超える欧州有数の800人のミュージシャンが演奏を行った)。

「フジロックフェスティバル」のロゴに塗り固められ

野外にステージを設け、出演者は無料で演奏する。人2000円の参加料が運営を支える。これは独特のアイデアだ。

フランスの6月の音楽祭「Fête de la musique」も似たことで数え切れないほどの音楽フェスティバルを訪ねたが、ジャズフェスは多く、バンドが参加するのは見たことがない(約50のステージで約720バンド、40万人を超える欧州有数の800人のミュージシャンが演奏を行った)。

「フジロックフェスティバル」のロゴに塗り固められ

野外にステージを設け、出演者は無料で演奏する。人2000円の参加料が運営を支える。これは独特のアイデアだ。

フランスの6月の音楽祭「Fête de la musique」も似たことで数え切れないほどの音楽フェスティバルを訪ねたが、ジャズフェスは多く、バンドが参加するのは見たことがない(約50のステージで約720バンド、40万人を超える欧州有数の800人のミュージシャンが演奏を行った)。

多様な聴衆 心一つに 街全体 開かれた祭りの場



演奏者と聴衆、仙台の街が一つになった定禅寺ストリートジャズフェスティバル=9月中旬

ている。仙台のジャズフェスにはそれもない。

散歩がてら聴く

「フェスティバルおたく」は、なるだけ多くのお気に入りバンドを聴くため計画を綿密に立て、会場内を走り回る。だが、ジャズフェスではそんなストレスと無縁だった。あまり知られていないバンドが多く、散歩をしながら演奏を楽しむことができる。気に入ったバンドと出会えば、ただ立ち

ている。仙台のジャズフェスにはそれもない。

散歩がてら聴く

「フェスティバルおたく」は、なるだけ多くのお気に入りバンドを聴くため計画を綿密に立て、会場内を走り回る。だが、ジャズフェスではそんなストレスと無縁だった。あまり知られていないバンドが多く、散歩をしながら演奏を楽しむことができる。気に入ったバンドと出会えば、ただ立ち

ている。仙台のジャズフェスにはそれもない。

散歩がてら聴く

「フェスティバルおたく」は、なるだけ多くのお気に入りバンドを聴くため計画を綿密に立て、会場内を走り回る。だが、ジャズフェスではそんなストレスと無縁だった。あまり知られていないバンドが多く、散歩をしながら演奏を楽しむことができる。気に入ったバンドと出会えば、ただ立ち

ている。仙台のジャズフェスにはそれもない。

キ並木道の下でにぎやかな、リラックスした雰囲気を楽しむ。散歩しながら少し立ち止まって屋台の食べ物を楽しむ、また少し立ち止まるとは音楽を楽しむ。さすが牛タンで知られる仙台らしく、屋台も肉料理が目立った。ベジタリアンやシーフード好きには少し我慢が必要だったかも。

スムーズな運営

ジャズフェスは「ピープル・ウォッチング」に最高の場だった。他の商業化されたフェスティバルは主に若者が対象だが、ジャズフェスでは小さな子ども連れの家族から「エルビス世代」の年配者、犬を連れた人たちまでさまさま。人を観察するのは、音楽を聴くのと同じくらい楽しかった。

「そんな多様な聴衆が一つのコミュニティ意識でつながるのを感じて、私は感動した。十数人の運営者、約60人の支援チーム、約1500人のボランティアが市民の実行委員会が、「わが街 仙台」のために心を一つにした。スムーズに運営し、プロフェッショナルに組織した彼らのハードワークは報われたと思う。」

「そんな多様な聴衆が一つのコミュニティ意識でつながるのを感じて、私は感動した。十数人の運営者、約60人の支援チーム、約1500人のボランティアが市民の実行委員会が、「わが街 仙台」のために心を一つにした。スムーズに運営し、プロフェッショナルに組織した彼らのハードワークは報われたと思う。」

「そんな多様な聴衆が一つのコミュニティ意識でつながるのを感じて、私は感動した。十数人の運営者、約60人の支援チーム、約1500人のボランティアが市民の実行委員会が、「わが街 仙台」のために心を一つにした。スムーズに運営し、プロフェッショナルに組織した彼らのハードワークは報われたと思う。」

「そんな多様な聴衆が一つのコミュニティ意識でつながるのを感じて、私は感動した。十数人の運営者、約60人の支援チーム、約1500人のボランティアが市民の実行委員会が、「わが街 仙台」のために心を一つにした。スムーズに運営し、プロフェッショナルに組織した彼らのハードワークは報われたと思う。」

「そんな多様な聴衆が一つのコミュニティ意識でつながるのを感じて、私は感動した。十数人の運営者、約60人の支援チーム、約1500人のボランティアが市民の実行委員会が、「わが街 仙台」のために心を一つにした。スムーズに運営し、プロフェッショナルに組織した彼らのハードワークは報われたと思う。」

「そんな多様な聴衆が一つのコミュニティ意識でつながるのを感じて、私は感動した。十数人の運営者、約60人の支援チーム、約1500人のボランティアが市民の実行委員会が、「わが街 仙台」のために心を一つにした。スムーズに運営し、プロフェッショナルに組織した彼らのハードワークは報われたと思う。」

「そんな多様な聴衆が一つのコミュニティ意識でつながるのを感じて、私は感動した。十数人の運営者、約60人の支援チーム、約1500人のボランティアが市民の実行委員会が、「わが街 仙台」のために心を一つにした。スムーズに運営し、プロフェッショナルに組織した彼らのハードワークは報われたと思う。」

「そんな多様な聴衆が一つのコミュニティ意識でつながるのを感じて、私は感動した。十数人の運営者、約60人の支援チーム、約1500人のボランティアが市民の実行委員会が、「わが街 仙台」のために心を一つにした。スムーズに運営し、プロフェッショナルに組織した彼らのハードワークは報われたと思う。」



ソニヤ・ブラシケさん 1977年、ドイツ・バイエルン州アウクスブルグ生まれ。レコード会社、ラジオ局、経済紙などを経て2004年に来日。フリーランス・ジャーナリスト、コピーライター。ドイツの新聞への寄稿多数。東京都在住。